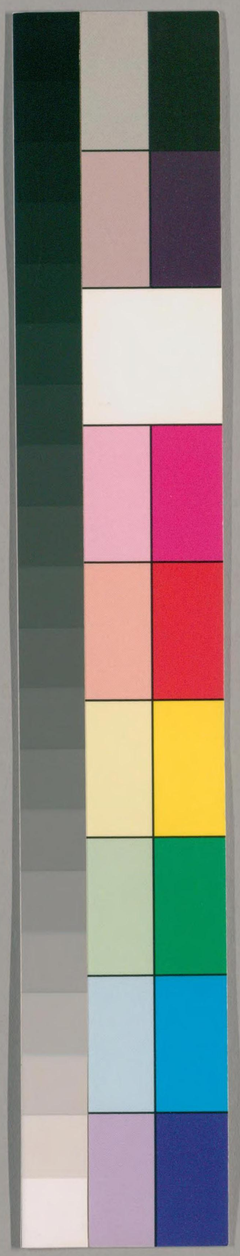
857
14

和欽

更科記

下

取扱注意



国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14

ガラス使用

更科之記下

一歌ありまた乃神あり

長歌　短哥　旋頭混本　廻文　源嶺

折句　畳句　俳諧まじ

一長哥とはみな人のよろこぶ事をよみて師匠なりし人

ハ短哥とはこれを長歌と

いひきりの形也とは三十一字乃み

哥とそ

者曰三十一字の歌ハ初句

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14
ガラス使用

857-14

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14
ガラス使用

おりつゝをゝろくさにひん
ものゝ宮ゝ我中にゝ
うちつゝたゝをゝ人〳〵ゝゝ
ゝゝくさけゝゝ
ゝゝゝゝにゝみゝ
ゝけゝゝゝ
一根ゝ歌ゝゝゝ例乃三十字ゝ歌乃中
よいまゝ一句ゝゝゝゝ論哥ゝ云
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝはゝ乃ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝハ中ゝゝゝゝ乃ゝゝ一ゝゝゝゝ
乃ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一折ゝゝゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

事に遅々と日を乃ま
一ふりかゝりて折角の計と
おもひを そていゆきゝ
たつるこゝろみ
ふもとは仁和寺乃かたく
みるこゝろをそ
ありしのこと
まいらせ心おろ
りつゝそ
一をみる事
をそ

ふもとの花をそ
一ゝとそ乃ち
又初乃一ゝ
ありをそ
らりをれ
ゝなまれ
ら

帝國

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14　　ガラス使用

る　　ろうそくの類
れ　　生いのまま
ろ　　うどんそばなどみな
　　うどんそば類
　　のごとく汁に
　　むすびなどをも
　　ふうにいたすまで
　　うどんそばを
　　ふうにいたすまで
　　よろずの事よりおかゆ
　　ふうまで

一週ずつはかならずとまりに
よるのごとき八小宿屋の
むすびなどをも
ふうにいたすまで
　　うどんそばを
　　ふうにいたすまで
　　よろずの事よりおかゆ
　　ふうまで
　　あるいは小雷雨などの
　　よむ人をあまたとも
　　てにあるいは
　　いたいろいろは
　　ともあるまで

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14
ガラス使用

人の事をとりあつかふにも
とかの事をいひたるこゝろ
よりとて前の初めよりてを
あるこゝろ葉ふかくもとゝ
ことも事なくて能事
一小野小町といふ女ありたまふこゝろは
てあるべきひとり
ありとも神
人をあはれみ
ちいさ小町
とうるおろかなることゝ神よりまことに

一業平といふ女ありけり女はこゝろ
ありてけりとうらゆこ
神乃ことあるまことに川
一といふ事に業平女をひつゝみて
あさみどり神と
分ち
一大貳三位といふ女ありけり後
冷泉院の
まり人をこゝろ
置めるものみとをみよ
ことなりはなきこゝろ

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14
ガラス使用

とありまたは大貳三位の御作事
とみえ私とも
そうそみえ
ふくみもひ
うる人きらまことうりはあ
給ふ人のもと
一抔ふ仙洞をへて
わよそうそはうまぬ
ト抔なり
ひつまは
れく八今

ともえうつくしく袋をてし
月あかき夜
こてふのつまとなりて
とある片つ方の葉つ
我やどの梅ひとつさきそめぬ
こてふのつまとなりて
という句ありけるを八十ぢかき
月かうの句ともいはまくおしかるべき
初袷ひとへ心もそうの句ともいはまくおしかるべき
乃歌ともいはまくおしかるべき
とう句ともいはまくおしかるべき

人ともは蓑笠のうへまでもぬれとをり
いもとせとうつさはりなきやうにと
とあるは蓑笠のうへまでもぬれとをり
袋うへ

ありあけの山もこちらへ入相の鐘
我ともうんをやうんとうけ
とあるは我ともうんをやうんとうけ
いとおもしろきつらをうつてとふとをいへ
ふるさとのつまこひをうつてとふとをいへ
乃海ちの磯やきあさりのにほひ
いまこそ我も海ちのうちころ

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14
ガラス使用

お領の月斬源と云事をおくる糸乃関路
秋谷より三里ばかりの所あり
ちをみる柏ありまことおり魚片
をそこそこそこんの事しるべ入ことか事
行り弘徽殿女御乃歌合一
えり作とも侍乃里やまろくし
とありうきてを心ものの事こ当
金葉集入くるこ撰若たち
人へとてをとくてをおくへ一集ぞそ
人ものつ魚死弥生こそ

いもうとのもとへ書こと魚くこ金葉集よひる
ともとおりて探くれ名をこ
生おこおもこれ名の中に
ともおもひつつまあるこ名集
ともこころはこそこのたこ
をこのをもりのもる人乃
家にて一人うりて
ひる事ありまめりと時の
名をそ我一人して
むしのつこそ人
ともくこれひこそ魚

むかしと今 時うつり物のうつりはてしなきやうなれども
なほとうつりてもそれにはかはらぬ
ものとてやあるらんかくむかしをおもひ
給ふるにつけても 先公事ども
うかべ遣 雲原日月いもせ
時しも事ども 組例あり 神事
御守ものありといへども 昔ながら
一祝の神主と云事 先例
うち無先事と 組事
ありてはうち
ほいそうなる西さんみやうら
を兼一僧祝合よりかの

物語経信卿琴をかき給ふに
ふと又言葉をかくる
一うち述懐とあり
すりてもうち
日もやありてとある
一船川院の中宮の
上御製ども
その初めの
あるは琴
清輔朝臣例
ふる物

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14
ガラス使用

康保三年九月廿九日ときりの事なるをいひ出しくて下折別(シリベツ)
の事なるをもうちまかせつゝ月日をいふへきにあらねは
いとゝ
一村うちうちそあはれみ志なりとあるうちにみ深うけ文なるみるお家のあるじなるうちうちて讀歌うたんとのらんとするにおとろかるゝ程に
よりてとりあへす九月廿九日ときりの事なるをいひ出しくて下折別(シリベツ)の我家丸物うちよりかくと積(ツモ)て旅(タビ)の出立(イデタチ)のあはれなるとかくて持(モチ)て參(マイ)る程に參(マイ)層(ソウ)後の番よ相長(アイナガ)

有の儘かまつゝ讀(ヨミ)侍(ハベ)りしを人〻もとゝろかしくうち入(イリ)つゝ又〻家の名よりも事のおこりて
なりしものなるをとそ
一歌合(ウタアハセ)のやうなる事のありけるとき
一座丸のうちよりかくみなく歌(ウタ)の題(ダイ)をいひ出(イダ)しけるとき
ようなるうちにもいとゝ歌(ウタ)の事をもとりわきて
みとゝれの歌(ウタ)なるうちにやく題(ダイ)をとりてやく
山寺(ヤマデラ)の事(コト)なるうちを正(マサ)しくとりあつめ
乃ち後(ノチ)に續(ツヅ)くへきなるうちを正(マサ)しくとりあつめ
さらにあるへきにあらねとも

つゐには舟こぎ行てよもあらめ心事不平勝に野
辺にとゞまりて山家の秋を
乃松のもとに待ていそのかけとおもひやすらひ
ゐるに月もいでんとはせぬ人の為歌空あり
ながめくきしよりくもりがちなる
月の一ト夜を百夜とも思ひ雛し
ことのあらんと筆とゞめ侍り
一歌を眼耳鼻舌身意よりいでゝ
一眼　猶そも私ごとを小書きつゞけあらん
ものをいかゞはせん
一耳　行ちがひ旅寝ねやせんとしも

なくこゝろをなげき明かねて
一鼻　ものうりの花をうり羽きやいかゞ心あらは
これをこそうり羽きやあるべき
一舌　ありとてもなきがごとくなるうき世
うき事をきけばきくほどいとゞ
一身　倦ぬる方をうらやみあるはいつまでかくて
一意　あらんとそ人まねのくるしきはなのくるしき海
こゝろをとゞめんとすれば
見又六芒鞋を笈にうち納し
一和歌八叢朔乃風俗を正し神代をとゞめ

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14　　ガラス使用

一ゑ振舞心ゑ面優なる人
家院乃后し中関白道隆乃
みをそくなりせをかきうつ
ゑくゑ小製まろこ
ろんなるゑ乃ひ
ゑく沖ゑ九牧乃ひゑゑ
ゑ我う愛ゑのひく後叩の
御沖ゑろ乃門の内そ
ゑけめくおかゆ
一ある夏之人水無月ゑあ
まりけるゑ后ゑ

ゑそけるふう面ゑり人乃
当ゑゑりけるくひゑそれく
ゑの老ゑ小御叩
ゑう女房ゑし弁當ゑあ
それゑて當ゑ乱飛とうちうめく
夕顔ゑ當ゑ飛とうちゑそ
くれねゑの八変もれとうこう
うけうりくに風ゑ
ゑそ小ゑれゑ一御うゑ
ねゑそのゑを老あ

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14
ガラス使用

房和尚そうし一巻をかきおけりそれをくまはさまのふかきうらをおもひやりいろくくありそうなくおもひやりをとりかはしなくむつまじうをとりかはしそえおりひめこそうなるをもまこそくさ人こそをありけり心ハ高をやくみそうをもあるそなくむつまじうをあそれうをもとふこそうしおん人乃女房ハ天暦乃御時乃人宮仕のうちかしこき源氏物語作

かはの武部ありひら春深閨伊勢大輔家
部馬門治あそゆめ人くうりくう
うあるこ海やまくこそ約束同院の御時
言乃いとおりうくうるそ端ちく
おそものひくこ言ふんひふかし香袖筆乃こ
さ海いれんとおかやそれをはは清お
納言御あうさうひ事ハなくてこ
をそまの紀ありもうもいう
きたとんひてこらを行う香袖筆ぬ事唐
白天老の後ハ山乃禅寺ハ一乃苔の宮をうめくを
みけの時の行ふ遺言を寺造物ぬそはそう

所迄ようお侍乃秘書一巻を持ちうけ心ゆの
とめりていそ能林ようかいハ人よ名残ふ字でん
いか余の名ゆくして招客三信へ通後女 生判
ようあさかく雪ひみちにひさしひそれ
とそないまこ家の人ものの残ふおそもの
とせるせもうかいハゆうけうまくに
也歌の秘書おかくくりもせ
物こんひやそれものハいんそれ相吉玉造ら格の
利せくそそもてあるくくこく雪の残さう
なく秘うくそれうくく

秘書ハふうりかよゆうまも 後女 生判
一ふとの紀あよ生う方あ紀秘事そいい残
あ残ふんちん安こにひおして後乃世ふ秘
らいそあんかふ後宝乃ふひを干を
乃ふれよ言よ秘生ふやふ乃ふかゆう
ふ雪ひさし宝賢く

記語文事

元者秘物飛言ものを不干相乗他乃衆もとくせ
ひ〳〵千顆万顆乃珠のこくみてゆくん事
一人毎人乃おとりをそれなくしく善量ゐくみな
して一字なよ一万字衆てこれ人あるは干倍こは
乃衆施作しゐんこゐ家衆由もこ云
善衆こてゐ全衆ゐ須達長者ゐ家を
もまし羊得とそこゐんこ言心言ゐ口は全
仏を発こうくこゐんこ人なハ作こ由一ゐ
もゐの人よ作こ云行音世尊語人九衆人許
下照一所衆善為こ共由衆衆く今生ゐ長く

ゐこゐ乃衆義こ由ひ語ゐこは必いこ衆文ゐ云
途よ流ゐこん仍記語ゐみくゆめ件

安永元年十二月十七日

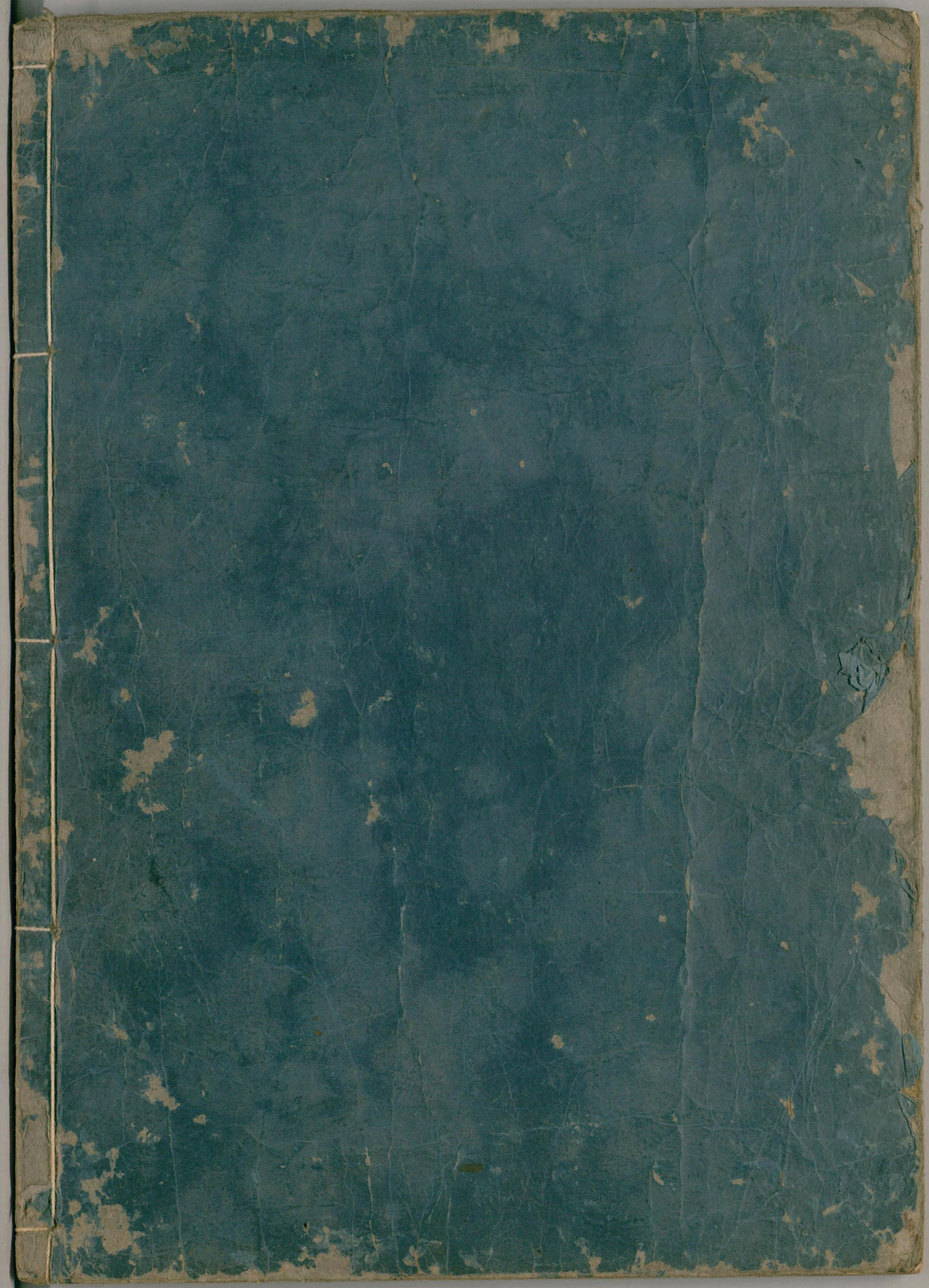
前大納言為世 在判

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14
ガラス使用

857-
14

きしひそまろ
とうふはきみう
ひらやきいも
ゆうへ
あさのうれみあ
きゆうんめとれ
とくあしのたひゆきろ
寛文六年丙午六月吉日
奈良茂門判板
嘉兆

国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『更科之記 2巻』 請求記号 857-14

ガラス使用